

パーキンソン病患者の症例報告

○加納美知子^{1, 4}, 鎌田里奈², 西山和希³, 赤嶺有希子¹, 田中祥子¹,
姜恵元⁴, 平野陽子¹, 吉原澄吉⁵, 谷田弘⁵, 澤井一⁴



和同会薬局¹, 明治薬科大学 薬学部², 東京大学 薬学部³,
和同会薬局 湯島店⁴, 一般財団法人 和同会⁵

目的

「患者のための薬局ビジョン」で、地域包括ケアシステムの中で、かりつけ薬局・薬剤師が服薬情報の一元化、継続的な把握や在宅での対応を含む薬学的管理、指導などの機能を果たし、地域で暮らす患者本位の医薬分業の実現に取り組むことが示唆されている。適切な服薬管理ができていなかったパーキンソン病患者に対して、薬剤師が訪問することにより、正しく服薬できているか、残薬から飲み忘れた理由などを共に考え解決していく。また、配合経腸用液の適正使用等を指導することで、薬の適切な自己管理を促し、患者のQOLを向上させる。無表情でいつも怒っている様子で会話もほとんどなく意思の疎通に欠けていた点があり、それらについても信頼関係を構築できるようにする。

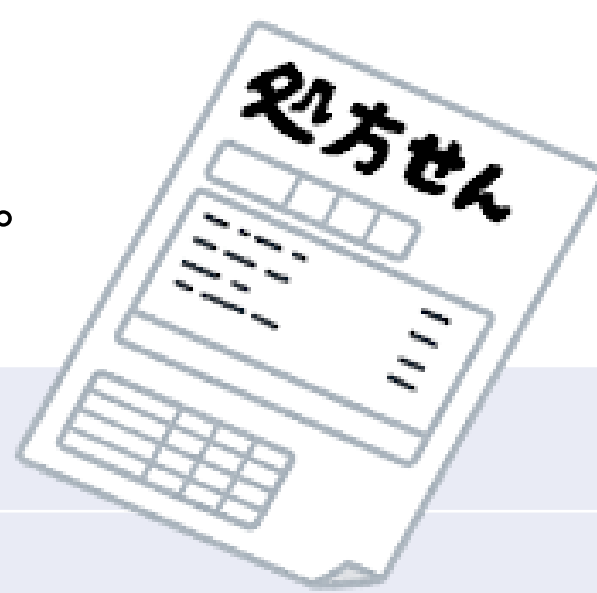
症例



I・Aさん 62歳 女性 独居
パーキンソン病のため、デュオドーパ製剤を投与してオン・オフ症状のコントロールを行っている。
パーキンソン病の症状として便秘、認知機能の低下がある。
改善薬としてメマリーOD錠20mg、アミティーザカプセル24μg、レミニールOD錠8mg、グーフイス錠5mgが処方されている。

<処方薬>

・デュオドーパ配合経腸用液		起床時	レボドパ・カルビドパ製剤
・メネシット配合錠100	1回1錠 1日1回 朝食後		レボドパ・カルビドパ製剤
・コムタン錠100mg	1回1錠 1日1回 朝食後		レボドパ・カルビドパ製剤と併用でウェアリングオフ症状の改善
・メマリーOD錠20mg	1回1錠 1日1回 夕食後		NMDA受容体拮抗薬 認知症症状の進行抑制
・グーフイス錠5mg	1回1錠 1日1回 ねる前		パーキンソン病の症状による便秘の改善
・レミニールOD錠8mg	1回1錠 1日2回 朝夕食後		アセチルコリンエステラーゼ阻害薬 認知症症状の進行抑制
・アミティーザカプセル24μg	1回1錠 1日2回 朝夕食後		パーキンソン病の症状による便秘の改善
・ビタメジン配合カプセルB25	1回1錠 1日3回 朝昼夕食後		ビタミンの補給による末梢神経炎改善薬
・ドンペリドン錠10mg	1回1錠 1日3回 朝昼夕食前		レボドパの副作用による消化器症状の改善
・スタレボ配合錠L100		12時 15時 18時 8時間毎	レボドパ・カルビドパ製剤

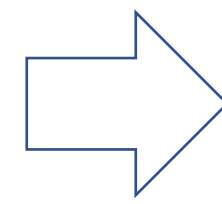


方法

大学病院の医師、在宅医、ケアマネージャー、訪問看護師、ヘルパー等の多職種と連携しながら、独居のパーキンソン病患者の、残薬・多剤併用・重複投与・過量服用などの服薬状況を確認した。当初、患者本人の判断で、もっと体の動きをよくしたいという思いから、他院で重複処方されていたメネシットを過量服用し入院に至っていた。この時、薬の数が多く看護師やヘルパーは適切に薬の管理をすることができていなかった。

◆当薬局は退院後から、この患者に介入し、以下の施策を実行

- ①複数医院から処方されていた薬を一元的に管理し、残薬調整を行った
- ②服薬カレンダーを使用することで、看護師やヘルパーなどにも一目で服薬状況が管理できるようにした
- ③定時薬は2か月分の処方だったが、過量服用を回避するために2週間ずつ（デュオドーパと同じタイミング）お渡しした



内服薬は
一包化にし
お薬カレンダーに
セット！

また、パーキンソン薬の配合経腸用液の使用に関して、問題点を抽出することにより改善策を導き出した。デュオドーパ治療とは、パーキンソン病の患者に用いられる治療法で、専用ポンプを用いて直接小腸（空腸）に、レボドパ製剤を持続投与することで、ウェアリングオフやジスキネジアを予防することを目的として行われる。

<使い方>

1. 胃ろうをつくり、そこからチューブを通す
2. 薬の入ったカセットを専用ポンプにセットする
3. 専用ポンプの連結口から体外に出ているチューブにつなぐ
4. スタートボタンを押す
5. 夜まで投与が持続するが、オフが来た場合に備えて追加投与専用ボタンがついている
6. ねる前に専用ポンプの電源を切り、カセットをはずして投与を終了する

<使用時の注意点>

- ・カセットは冷蔵庫保管（2～8℃）
- ・カセットは冷蔵庫から取り出した後、20分間程置いてから使用する
看護師やヘルパーの方がカセットのセットを手伝うこともある
→ケアマネージャーさん、訪問看護師の方などと情報を共有して、正しい使い方を皆が理解しておくことで、患者さんへの支援体制が充実する
- ・使用期限が短い
→カセットの箱に使用期限を記載して一目で分かりやすくした
- ・カセットは16時間以上使用せず、1日使い切りのため、薬が残っていても翌日使用しない
- ・取り外したチューブは水を入れたシリンジを用いて洗う



デュオドーパは
必ず冷所保存！

注意



<メリット>

- ・レボドパ製剤を持続的に投与することで、レボドパの血中濃度を一定に保つことができる。パーキンソン病の初期は薬が効いていて、かつ副作用も出ない治療域が広いため、内服薬でもコントロールすることが比較的容易だが、病気が進行すると、ウェアリングオフの時間が少なくなるように内服薬でコントロールすることが難しくなる。治療域を超えて薬が効きすぎるとジスキネジアができてしまう。パーキンソン病の患者さんは胃や腸の動きが悪くなり、小腸からの吸収が不安定になるため、飲み薬ではコントロールが難しくなる。患者は元々活動的な人なので、オンの時には外出することもできる。オンの時間が長くなれば、患者さんのQOLも向上する。
- ・年齢制限がなく、適応範囲が広いため、導入しやすい。薬は効くが、内服薬ではコントロールが困難であること、装置の管理ができることを満たせば適応となる。

<問題点>

- ・機械が大きくて重く、自由に動けない
- ・寝返りをうつことが大変
- ・機械が硬いので皮膚が擦れてしまう
- ・機械の操作がしづらい
- ・患者はオフの時、投与量を増やしたくてボタンを操作したくても、首が思い通りに動かず、操作ができない



【患者さんの作品①】

レザーを材料に
ミシンで
作ってます！



【患者さんの作品②③】

帯地を材料に
ミシンで
作ってます！

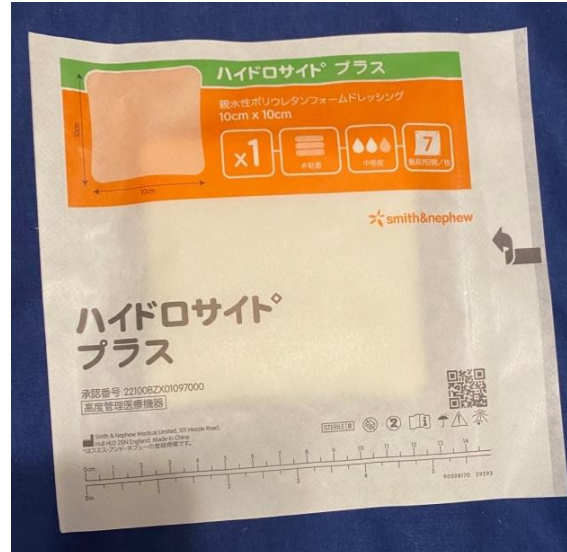
手芸
(かばんづくり)が
趣味です！

<改善策>

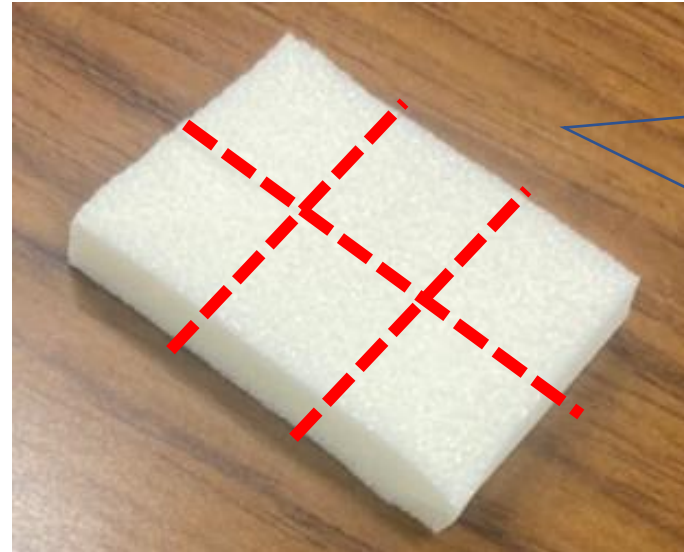
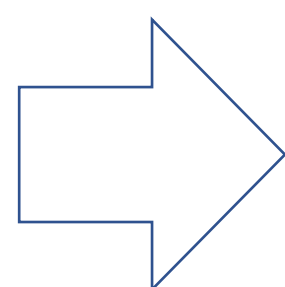
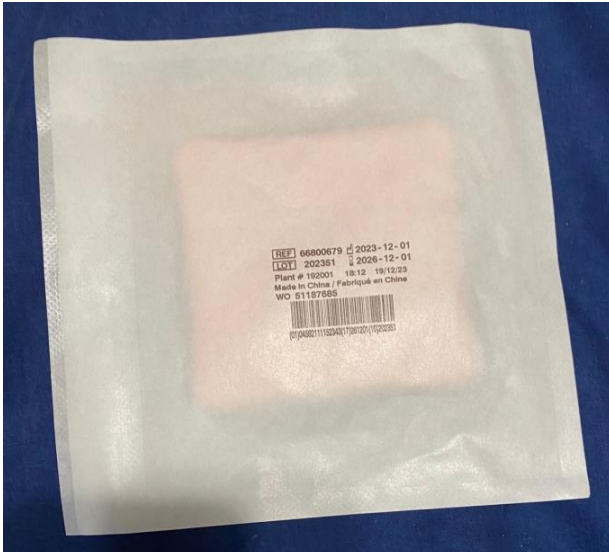
- ・機械の小型化
- ・チューブを長いものにして、点滴のようにすることで、寝返りがしやすくなる
また、本体を体から離して見えるようにすることでオフ症状の時、首が動かしにくくても操作がしやすくなると考えられる
- ・褥瘡に使われるハイドロサイトを本体と皮膚の間に挟み、皮膚症状を軽減、ステロイド軟膏を塗ることで症状を軽減している



【デュオドーパ装着時】



【使用中のハイドロサイド】



患者さんの工夫で
「ハイドロサイプラス」を
(粘着剤なしでカットが可能)
細かくカットし、切り目を入れ
本体と皮膚の間に挟んで
使っています！！
※大きさは1cm×2cm

結果

薬の自己管理ができず過量服用により入院した患者について、退院後、薬剤師が頻回に在宅へ訪問して、定時薬のお薬カレンダーの使用や残薬の回収を行うことで適正使用、過量服用は是正することができた。また、配合経腸用液の使用における種々の不具合についても、患者宅での保存方法およびポンプ装着の手順などを再確認することで解決できた。現在、副作用や機器の不具合などは見られず患者の趣味であるバッグの作製などを行い、地域の活動に参加するなどできており、QOLが向上したといえる。こまめに連絡を取り合うなどして、薬剤師との信頼関係が良い方向に構築されていくことで、自分の今までの経験、趣味、生活、仕事のことなど笑顔で話せるようになった。

考察

このパーキンソン病患者のように意思の疎通の取りづらいと思われる患者とも、在宅への訪問指導の回数を重ね、信頼関係を築いていく中で、どのような解決策があるか等を模索し、積極的に関わる必要がある。